

## 病理組織検体準備についてのお願い

がん遺伝子パネル検査は、病理組織検体の固定の良否や腫瘍量によって検査の成否が左右されます。成功のために、貴院のご協力が不可欠です。組織検体の送付にあたり、以下をお読みいただきご協力お願い致します。

### 提出いただく病理組織標本

1. ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) 検体の未染色スライド 10 枚
2. 同部位の HE 標本 2 枚
3. 診断に使用された 免疫染色標本すべて

### FFPE 標本の推奨される条件

1. 固定には 10%中性緩衝ホルマリン液を用いた標本
  2. 固定時間 6~48 時間の標本
  3. FFPE 標本作成後 3 年以内の標本 (長くても 5 年以内)
  4. 脱灰には中性脱灰液を用いた標本 (酸性脱灰は不可)
- (上記の条件に満たない場合、検査不能・不適の場合があります。)

### コンタミネーションの防止

切片作製時、別患者由来 FFPE 切片とのコンタミネーションを避けるため以下の点に注意してください。

1. 検体ごとに毎回新たなマイクロームブレードを使用してください。
2. ウォーターバスは検体ごとに毎回洗浄してください。
3. 手袋は頻繁に交換し、マスクを着用してください。

### ご準備いただく FFPE 標本について

1. 手術・生検検体のどちらでも可能
2. 腫瘍部未染スライドをご用意下さい
  - 切り出しは腫瘍細胞がなるべく多く含まれている部位を選択して下さい (腫瘍細胞含有率 20%以上、できれば 30%以上)
  - 腫瘍細胞が 20%以下の場合は マクロダイゼクションをお考えください。(マクロダイゼクションをご希望の場合は全てのスライドの裏面から腫瘍部位に必ずマーキングをし、領域内の腫瘍含有率を明記してください。)
  - 切片の 厚さ 4~5  $\mu\text{m}$  で切片表面の 面積 25mm<sup>2</sup> 以上のスライドを 10 枚
  - 切片の面積が 25mm<sup>2</sup>の場合 (特に生検検体)、切片の合計体積が 1mm<sup>3</sup>になるようにスライド枚数を追加して下さい。

3. ガラスの種類：剥離防止コーティングガラスを用いてください。
4. 個人特定できるガラスへの氏名等の記入は避けてください。
5. 薄切後、伸展機および孵卵器の使用は避け、一晚室温乾燥させてください。
6. 1枚のスライドには1つの切片のみとし、全て同一のブロックから薄切して下さい。
7. 薄切後の未染色標本では、DNA, RNAの品質の低下が早く進むことがいわれています。薄切後12ヶ月以内のものを使用して下さい。なお、薄切後長時間使用されないと予想される場合は標本を冷蔵保存して下さい。
8. 別紙の病理検体情報チェックリストに必要事項を記入し、スライドを専用の新しい容器（専用の標本ケースは総合病院で準備可）に入れ提出お願いいたします。

貴院での標本作成が困難な場合や、その他不明な点がございましたら以下までお問い合わせください。

滋賀県立総合病院 病理部  
TEL 077-582-5031（内線 5380）